

学校訪問 岩手県立盛岡第三高等学校

所在地 盛岡市高松四丁目 17 番 16 号
訪問者 本校教員 5 名
訪問日 平成 28 年 6 月 24 日・25 日
対応者 校長、副校長 2 名、経営企画課長



1 学校概要

創立 54 年目を迎える普通科高校。各学年 7 クラスで、全校生徒 845 名（男子 407 名、女子 438 名）。生徒、保護者、地域のさらなる期待に応えることを使命とし、時代と社会の未来を担う「瞳輝くリーダーを育てる」学校として、生徒個々の目標を実現できる「夢を叶える学校」であることを目指している。

2 盛岡三高の参加型授業

(1) 参加型授業の導入に至った経緯

長い間、進学実績を支えてきたのが模試対策を中心に一方的に説明する知識注入型の授業で、大量の学習課題を課し、模擬試験の偏差値で生徒を叱咤激励するスタイルであった。部活動も盛んで生徒にも職員にも疲弊感が目立っていた。このような中で、これまでの教育のあり方を見直そうとの気運が高まり、「生徒に時間を返そう」「生徒が自主的に取り組む学校にしよう」との考えから、平成 19 年度より「三高改革」に着手した。そこでは、課題と課外授業の量や質を見直し、適正化を図ることで「授業で勝負」する学習への転換を進め、参加型授業が開始された。

もともと進学実績は十分にあり、実績を伸ばすために始まったわけではなく、偏差値や進学実績にこだわることなく「育てたい生徒像」を具現化するための授業形態であり、全職員共通理解のもと推進されているのが「参加型授業」である。

(2) 「育てたい生徒像」

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① これからの時代のリーダーとなる、自主性に富んだ人間② 進取の意欲と高い志を持ち、社会の未来を創造する人間③ 誠意と信頼で豊かな関係を築き合う、友愛に満ちた人間 |
|---|

(3) 参加型授業の定義

「生徒全員が、50 分間、主体的・能動的に取り組むような授業」であり、具体的には以下の 3 つのポイントを押さえ教材研究がなされた授業である。

- ① 生徒の主体的な学びを促す授業
- ② 生徒が考える・気づく・表現する場面のある授業
- ③ 「導入 - 展開 - まとめ」の一貫性があり、生徒に適切な負荷をかけつつ達成感を与えることのできる授業



(4) 全教員で参加型授業に取り組むために

- ① 個人課題の明確化……年度初めに教員が個々に、参加型授業の視点から課題や目標を設定する。
- ② 自由に授業を互見……同僚同士、常に自由に教室に入り授業参観しても良い。
- ③ 授業公開……全員が年に1回は研究授業を実践する。(授業公開シートの活用)
- ④ 教科内研究……日常的かつ協働的に、教材研究を行う。
- ⑤ 職員研修……職員会議や学校訪問における交流を大切にし、研修を積む。
- ⑥ 生徒授業アンケート……年2回生徒による授業アンケートを行い、自身の授業を評価する。
- ⑦ 参加型授業通信の発行……通信による授業実践の交流を行う。

(5) 平成28年度参加型授業を展開する上での合い言葉

生徒のために「参加型」、だれでもできる「参加型」、みんなでやろう「参加型」

(6) 参加型授業の取組

- 管理職が枠にはめずに、教員に自由にやらせている。(職場の雰囲気がなにより大切)
- 質の高い発問をするためには、かなりの授業研究が必要。参加型授業をしたからと言って生徒任せで授業が進んでいくわけでは決してない。
- 以前は、参加型の授業ができる人のみがやっていた個人プレー、最近では、普通の教員が普通にできる全体プレー
- 授業評価アンケートを行い、教員に結果の個票を配布。全体の平均と、個人の数値が比較されており、授業の中で何が足りていないのか一目瞭然で理解できるようになっている。



(7) 年間公開授業の予定と学校訪問受入の実績数

授業公開週間を7週設定して、この期間で学校訪問を受け入れている。

平成25年度 30件、26年度 55件、27年度 69件と、県内をはじめ全国各地から高校のみならず、大学や教育委員会等の学校訪問が絶えない。

3 学校説明の概要（木村副校長の説明）

【参加型授業】

- どの学年でもどの教科でも簡単なペア学習～グループ活動をおこなっているのが、生徒が指示されただけで生き生きと意見の言い合いや、教え合いができています。授業の中に根付いている。
- 「参加型授業を行ったからといって著しく成績が上がったとは思わない。ただ、生徒が笑顔でいきいきと学校生活をおくるようになった。」
- 参加型の授業に取り組んでみて、校内の雰囲気はよくなった。
- 保健室の利用率低下や不登校の減少した。
- 大学から三高の生徒はコミュニケーション能力が高いやリーダーとして頑張ってくれるなど高評価。また、校外に出て行っても「三高の生徒は数年前と比べても意見が言えるようになった」と評判。
- 地域の高校生の会議等でも中心になって話をすすめることができる。そして、授業だけでなく、生徒が委員会、行事を積極的にやるようになった。生徒会やクラス活動も活発になった。
- 基礎学力定着のため、やることはきちんとやっている。参加型授業をすることばかりではなく、基礎を定着する授業ももちろんやっている。スタンスとしては、やれるときにやる！という感じ。



4 学校見学の感想

おもしろいアイデアを見つけた。それは白紙プリントの使い方であり、トレーが準備されており、その中には大量の穴が空いた白紙の紙が入っている。生徒は、その白紙を計算メモに使ったり、振り返りに使ったり、教員への質問に使ったりと慣れたように書き込んでいた。ただの白紙の工夫が生徒の思考の深化に繋がっており、多くの授業で参考になるのではと感じた。廊下には、模試の過去問の山と白紙プリントの山があり、おそらく生徒は自分で過去問を白紙プリントに解き、ファイリングしていくものである。

授業においては、5人程度のグループが割り振られた単元を15～20分程度で、生徒自身が授業を行う形式や、プロジェクターや実物投影機を利用した授業が展開され、プリント内容をそのままホワイトボードに投影し、解答をそこに書き込んでいく方式で進められるなど、各教員による独自の授業スタイルで進められ、工夫された授業展開であった。また、机列は長机を利用して3人がけで常に隣同士での話し合い、グループでの話し合いができる形態となっており、各教科担任の授業スタイルによって工夫されていた。

